駒本小学校
「学びの教室」通信

No.3
令和元年6月21日
文京区立駒本小学校
特別支援教室「学びの教室」
校長　吉岡　淳
直通電話　3827−5575
（ファクシミリ兼用）
担当　戸田 敬、佐藤 友里子、大槻 美弥子

お手伝いについて

あと数週間で、夏休みが始まります。多くの子ども達にとっては家庭で過ごす時間が長くなるかと思います。習い事や育成室に通うお子さんにとっても、いつもよりは少しゆとりができるのではないでしょうか。今号では、ご家庭で子ども達の発達を促すことができるものの一つと言われているお手伝いについて特集を組みました。

さて、お手伝いにはどのような効果があるのか、簡単に分析してみましょう。

①能力の向上

手先を使うお手伝いは、細かい動作に関する能力の向上が考えられます。現在の私たちの生活を振り返ってみると、例えば、掴んだものを回転させる（捻る）という動作はとても少なくなっています。雑巾がけの機会は減って、取替式のフロアモップが活躍し、ドアノブや流しの水栓も、レバー式に替わったところが多くなりました。皆が使いやすくなるというユニバーサルデザインの観点からは歓迎すべき流れなのですが、子ども達の身体の使い方という点では、特定の動きに関する経験が減ってしまうという一面もあります。

あるご家庭では、個人面談をきっかけにして、お子さんに“洗濯物の取り込みと仕分け”をお願いしました。2か月経った今では、お家の人が帰宅すると、ちゃんと家族の洗濯物が仕分けされて置いてあるそうです。洗濯ばさみ（ピンチ）から外す際は、指先にしっかり力を入れることや目と手の協応といったことが必要ですし、片方の手で洗濯物が落ちないように保持しながら、洗濯ばさみを操作する動きは、意外に複雑なため、関連する様々な能力の向上につながります。また、他にも注意力、同時処理能力、形の認知など*の力も高まることが考えられます。

②役割意識

家庭の中での役割意識が向上します。「自分の役割としてこれをきちんとやるんだ。」という意識は、集団生活でとても大切ですし、学校生活での当番活動や係活動の充実にもつながります。

③自己有用感

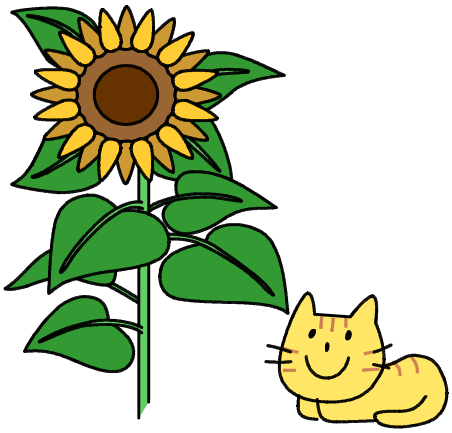
お手伝いをしたことで家の人に褒められ、「おっ、自分は家族の役に立っているんだ。よかったなあ。」と自己有用感が得られます。

なお、お手伝いは、日々の生活の中から子どもが家族のために行えるものを選択すると、大人と子どもの双方にとって負担が少なくなります。その際、「無理のない範囲で」ということがキーワードになります。加えて、「ゴミを捨てる」「片付けをする」などの形に残りにくいお手伝いよりも、「家族の食器を食卓に並べる」「無洗米を使ってご飯を炊く」などの形に残るお手伝いの方が、子ども自身にとっては達成感が大きいようです。

今年の夏休みは、「毎日、子どもが家にいるから大変！」ではなく、「夏休みだから○○をさせてみよう。」と視点を少し変えて、お子さんの発達を促してみませんか。

*注意力、同時処理能力、形の認知などの能力以外にも、お手伝いに対して、「ご褒美」「トークン」を効果的に活用した場合、耐性などが身につくことも考えられます。この「ご褒美」「トークン」などは、遅延報酬の視点から、別の機会に特集を組む予定です。

７月の予定



・　８日（月）月曜グループ指導終了
・　９日（火）火曜午後グループ指導終了
・１０日（水）水曜グループ指導終了
・１２日（金）金曜グループ指導終了
・１６日（火）個人面談期間*始
・２６日（金）個人面談期間終
*今回の個人面談は、希望制です。別紙プリントをご参照ください。

９月の予定

・　９日（月）月曜グループ指導開始
・１０日（火）火曜午後グループ指導開始
・１１日（水）水曜グループ指導開始（水曜午後グループは区小研のため指導休止）
・１３日（金）金曜グループ指導開始

７月のコミュニケーションタイムの主な学習予定

「バルバレー」

●ナイロン製カバーの中に膨らませた風船を入れたボールを使って行うバレーボールです。普通の風船で行うバレーボールよりも、トリッキーな動きが少なく、かつ、ゆっくりした動きのためプレーしやすく、「学びの教室」の多くの利用児童から支持されている活動です。

・状況に応じたコミュニケーションの能力を育む。
・勝敗にこだわり過ぎず、結果を素直に受け入れる態度を養うとともに、活動そのものを楽しむことを学ぶ。
・目と手の協応を向上させる。

「ミクロアドベンチャー」

●プロジェクターで拡大投影された様々な事物の画像を見て、事物が何かを考えます。発達に特性がある児童の場合、答えに完璧な自信がないと発表に前向きになれないこともあるので、活動を通して、そのような場合に挑戦することの大切さも意識させます。
・注意を集中できる時間を延ばす。
・一部から全体を推測する力を高める。